



「水と人をつなぐ、水循環」分科会



<事務局> 埼玉県企画財政部土地水政策課

<設置目的> 県内水需要が安定した今こそ、次世代に向けて意識の改革を。
節水（水が足りない）から 水の循環を健やかにする時代へ。

<これまでの主な取組>

区分	日付	名称	内容
相互研修	7月1日	キックオフ(第1回)ミーティング	水循環概論 講演:認定NPO法人水のフォルム 藤原様
	9月16日	第2回ミーティング	1.SDGsの取組について 講演:(株)山口組 後守様 2.秩父の森の歴史と水循環 講演:秩父市 富田様
専門研修	11月28日	第1回「水と人をつなぐ、水循環」セミナー	健全な水循環に果たす森林の役割 講演:東京大学名誉教授 太田猛彦様 (参加者:36名)
実践活動	7月23日 ~7月24日	水源わくわくセミナー	ハツ場ダム見学、小学生サッカー教室、クイズ大会 協力:浦和レッドダイヤモンズ、ザスパ群馬、群馬県、長野原町 上下流交流事業「水源わくわくセミナー2025」-埼玉県 (参加者:70名)
	11月15日	さいたまの水と森ふれあい体験	滝沢ダム見学、木工(焼き板)体験 協力:水資源機構、大滝元気プラザ (参加者:39名)

【相互研修】 分科会の会員が講演を行い、会員相互で意見交換、研修を実施。
 【専門研修】 専門家を招いてセミナーを開催し、会員及び希望者の学びの場を提供。
 【実践活動】 相互研修、専門研修による「知の共有」をベースとして、会員による活動を実践。
 ※令和7年度は事務局による過年度の活動を継続して実施。令和8年度は会員による活動を広げていく。



SDGs 未来都市
埼玉県

7/1 キックオフ(第1回)ミーティング

- ・令和7年4月に「水と人をつなぐ、水循環」分科会を設置したことを受け、キックオフミーティングを開催しました。
- ・会員間で今年度の活動計画を確認するとともに、水循環の概論について知識を共有しました。

「水と人をつなぐ、水循環」分科会
令和7年度 第1回 ミーティング レポート

日 時: 令和7年7月1日(火)
14時00分～15時45分
場 所: 埼玉県庁 本庁舎2階
企画財政部企画課及びWeb会議

ご挨拶
本県では、あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる日本一暮らしやすい埼玉を目指し、「埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム」を設置しています。その中で令和7年4月、水循環の分野におけるテーマを検討する場として本分科会を設置しました。この分科会は企業や団体、行政が相互に連携し、学び、行動することで、本県の健全な水循環を推進していこうとするものです。本県を代表する河川である荒川も、その始まりは甲武信ヶ岳からしみ出たわずかな一滴に始まり、少しずつ大きな流れとなっていきます。この分科会の活動も少しずつ大きな流れとなるよう、皆様のお力をお貸しいただければと思います。

令和7年度の活動

活動名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分科会ミーティング	7/1											
SDGs												

① 会員ミーティングについて、キックオフミーティングを7月1日に実施いたしました。第2回ミーティングは9月頃実施予定です。詳細が決まり次第お知らせいたします。

② 事務局主催で、「水のふるさと応援団」「水源わくわくセミナー」「埼玉の水と誇りあふ事業」を実施します。会員の皆様には、11月頃実施予定の「水循環セミナー」、2月13日実施の「シンポジウム発表」について、詳細が決まり次第、お知らせいたします。また、会員の皆様による水循環に関する取組がありましたら事務局までお知らせください。

③ 会員の皆様に随時、情報を共有させていただきたく、フェイスブック、X等による発信を逐次実施してまいります。

知識を共有しよう！

- 水は雨が川や地下水になって流れ下り、海に出て蒸発してまた雨になって、と陸と海をつないで循環しています。
- 陸地に降る雨が川に集まる範囲を「流域」と言います。流域は地球のパーツ。流域ごとの水ネットワークが健やかであれば地球は健やかになるはずですが。
- 今のところ地下水については未解明ですが、地下水を除く水の流れを理解し、水がどこから来てどこへ行くのかを知るだけでも、上流に感謝し、下流に配慮する水利用になって、健やかな水循環に貢献できます。

● 「循環」という概念の共有

循環は「ぐるぐる回って、一方通行のゴミを出さない」ということ。

それには、上流から来る水を知り、使った水が下流にどのように影響するか、知ることが大事。

● 水循環を整理してみる (イタリアの水法の例から)

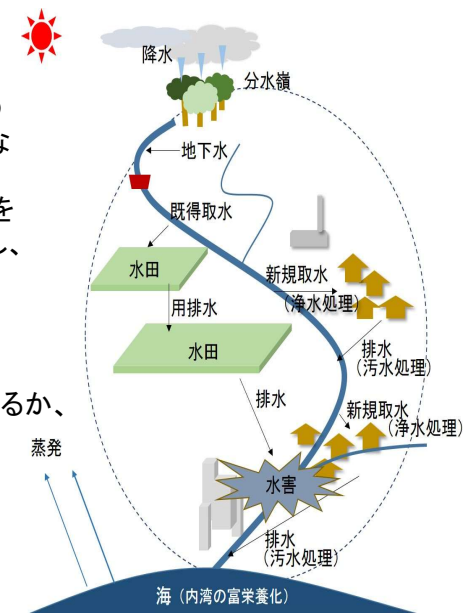
個々の水利用に関わる水循環→小循環

主要河川流域の水循環→中循環

地球規模の水循環→大循環

● 埼玉の特性を生かした循環を知ろう

埼玉平野を流れる荒川など主要河川は中流部が長く、流域が広く、ほぼ平ら。そこでの川と水路と田をつなぐ「水ネットワーク」は今に引き継がれた埼玉の財産。大地を往く水みちを知っておけば、自然や歴史文化理解にも、防災にも役立ちます。



9/16 第2回ミーティング

・分科会の会員相互で意見交換、研修を実施しました。

・秩父市を舞台として、総合建設業を営まれている株式会社山口組様より「SDGsの取組」について、秩父市役所様より「秩父の森の歴史と水循環」について御講義いただきました。

「水と人をつなぐ、水循環」分科会
令和7年度 第2回 ミーティング レポート

日時:令和7年9月16日(火)
14時00分~15時45分
場所:秩父市役所3階庁議室
及びWeb会議

はじめに

今夏は全国的に記録的な少雨や猛暑が続き、「湯水」が話題となりました。幸い埼玉県においては、湯水による取水制限とはなりませんでした。この史上最も暑い夏を乗り切るために、その裏では荒川、利根川上流のダム群が大活躍しております。

水資源を将来にわたって、安心・安全に使用し続けるためには、健全な水循環を維持し、守り、育むことが重要です。

さて、今年度立ち上げた本分科会は、前回のミーティングから更に会員数が増え、少しずつ裾野を広げているところです。

今回のミーティングでは、秩父市で建設業を営む株式会社山口組様に「SDGsの取組について」、秩父市総合政策課様に「秩父の森の歴史と水循環」と題してご講演いただきました。

今後も、会員の皆様にとって、健やかな水循環について学ぶ機会を提供できるよう努めてまいります。

『SDGsの取組について』 株式会社山口組様ご講演

● 会社の主な取組 ~地域に根差し、未来を築く総合建設業~

- 働き方改革 * 「働きやすい職場づくり」を推進し、仕事と家庭の両立を支援する「多様な働き方実践企業」としてプラチナ認定。
- SDGsパートナー * 埼玉県SDGsパートナーに登録し、工事現場などで取り組み内容を掲示。
- アライチャレンジ * 人材確保の一環として性的マイノリティが働きやすい環境づくりを支援する「埼玉県アライチャレンジ企業」に登録。

● SDGsの具体的な取組

- 社内体制の整備 * 事業活動に伴う環境負荷を低減する取組として、騒音対策、電力消費量削減、CO2削減の取組を実施。エコドライブ教育を通じ、社員の環境意識を醸成。
- リバーサポーター * 2017年7月に「川の国広域環境美化活動団体」に登録。年1回、小鹿野野を流れる一級河川薄川のごみ拾いや草刈り活動を実施し、地域の環境美化に貢献。

川の国広域環境美化活動

Before After

大滝トンネル舗装工事(暫定供用中) 落石事故による国道140号通行止めへの緊急対応として砂利道を整備

『秩父の森の歴史と水循環』 秩父市総合政策課様ご講演

秩父市の基礎データ

- 人口 56,534人 (R7/8/1) (県全体の約0.8%)
- 面積 578㎢ (県全体の約1.5%)
- 森林率 87% (県全体の約42%)
- 森林面積 503㎢

秩父山地の特徴

埼玉県西部に広がる秩父山地は、首都圏を潤す大動脈、荒川の源流を抱く「水がめ」です。

秩父の山は非常に急峻であることが特徴であり、雨が降りやすく、市内に4つのダムを有するその豊かな森は、私たちの暮らしに欠かせない水を育んでいます。

秩父の森の植生

秩父山地の植生は標高によって異なり、衛星写真でそのグラデーションを見ることができます。

標高1,600m以上	オオシラビソやコメツガなどの亜寒帯常緑針葉樹林	深緑色
標高600m~1,600m	ミズナラやブナなどの落葉広葉樹林	茶色
標高600m以下の人里に近いエリア	スギやヒノキの人工林	深緑色

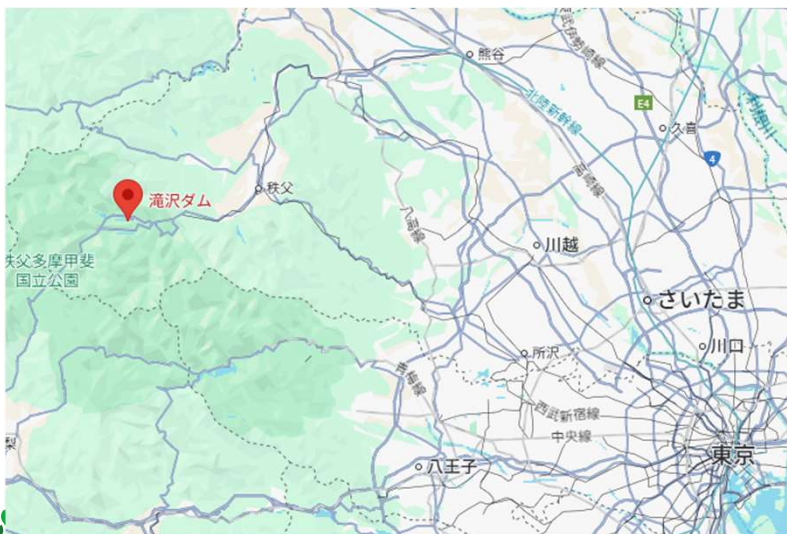
出典:埼玉の自然(埼玉県自然の博物館)



11/15 さいたまの水と森ふれあい体験

- ・県内小中学生とその保護者の方を募り、埼玉県の水源の一つである秩父市の滝沢ダムを訪問しました。
- ・ダムの見学や大滝元気プラザでの木工体験を通じて、水源地域を取り巻く状況や保全の重要性について、理解を深めていただきました。

場所：滝沢ダム、大滝元気プラザ（秩父市）



ダムを管理する水資源機構の方から、ダムについての説明をいただきました。



ダムの内部も見学させていただき、その機能や役割を教えてくださいました。



大滝元気プラザで焼き板づくり。木を切り、火を起こして焼いていきます。



絵付けをして、オリジナル作品の完成!!

11/28 第1回「水と人をつなぐ、水循環」セミナー

- ・会員及び県民を対象として専門家を招いてセミナーを開催しました。
- ・今回は「健全な水循環に果たす森林の役割」というテーマで、東京大学名誉教授 太田猛彦様に御講演をいただきました。

「水と人をつなぐ、水循環」セミナー
 ～健全な水循環のために～

令和7年4月より、埼玉県のSDGs官民連携推進の一環として「水と人をつなぐ、水循環」分科会を設置しました。
 本分科会では健全な水循環を目指し、水循環に関する知識を共有するセミナーを開催してまいります。
 今年度は「健全な水循環に果たす森林の役割」と題し、東京大学名誉教授 太田猛彦氏のご講演です。
 参加費は無料。皆様ぜひご参加ください。

●太田猛彦氏プロフィール
 東京都出身。東京大学農学部卒業後、東京農工大、東大、東京農大で森林環境学、森林水文学、山地・砂防学の研究・教育に約40年携わる。この間、砂防学会、日本森林学会、日本緑化学会の会長を務めるとともに、平成12年には日本学術会議からの若手「地産地消・人間生活に関わる農業及び森林の多面的な機能の発揮について」をまとめ、平成23年には東日本大震災に係る海岸防災林の再生に関する検討会「座長を務める。現在は、FSCジャパン代表、みよ森林・林業アカデミー名誉学長、かわさき市民アカデミー理事長、さいたま緑のネットワーク協合理事長。著書も多く、NHK出版発行「森林地と国土の変遷を考える」は分野を超えて多くの人に読まれている。また、今年の夏には、緑や森林に関して顕著な功績のあった者を顕彰する「みどりの文化賞」を受賞した。

日時 2025年11月28日(金) 9時30分～11時30分
 定員 90名
 会場 埼玉会館 7B会議室
 お申込み 右QRコード、または下記のURLよりお申し込みください。
https://agpb.r.tsumo.jp/pref/saitama/sd/gf/offer/List_detail?tempSev=104979

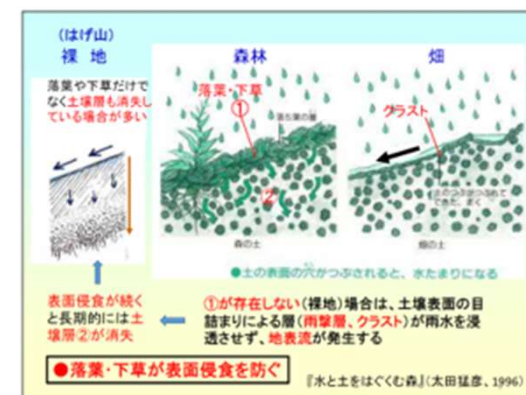
主催：埼玉県 企画財政部 土地水政策課
 問合せ：土地水政策課 水計画調整・水源地域対策担当
 直通電話：048-830-2191
 メール：a2180-02@pref.saitama.lg.jp



水源涵養機能はすべて、森林が雨水を地表流から地中流に変えることにより発揮される。すなわち、
 ①地中流の流速は地表流に比べて格段に遅い、
 ②そのため洪水は発生しない、
 ③地中流は地下水を涵養する。

さらに言えば、
 ①森林の林床(鉱物土壌の表面)が落ち葉や枯れ枝あるいは下草で覆われていること、および
 ②森林土壌の良好な透水性により発揮される。

↓
 水源涵養機能を発揮する主体は「健全な森林土壌」



SDGs未来都市
 埼玉県



「水と人をつなぐ、水循環」分科会



<令和8年度の取組>

- ・ 会員相互によるミーティング
- ・ 水源地域振興や教育、啓発等の個別課題に関する検討（プロジェクトチーム立上げ）
- ・ 専門研修の開催（水循環セミナー）
- ・ 水源地域振興イベントの開催等

↓昨年度のイベントの状況↓

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0108/jokaryu-koryu/index.html>

地球規模の大きな循環（大循環）の中に
 河川と農業用排水などの中規模な水循環（中循環）、
 河川と上下水道の取水・排水などの小規模な水循環（小循環）がある。
 この水の流れを健やかするために。



分科会に参加する様々な企業・団体が、流域の水の流れを学び、それぞれの特色や強みを活かして取り組む。



<プラットフォームの企業・団体のみなさまへ>

昨年度ご参加いただいている会員のみなさまからは「企業や自治体が連携し、森林の役割や水循環の仕組みを多角的に学ぶことで、上流から下流までの繋がりを再認識できた」や「相互研修、専門研修、実践活動と取り組み内容は充実していると感じた。この分科会を通じて、埼玉県の水循環に貢献できるよう今後も参加したい」などのお声をいただいております。

今年度も多くの企業・団体の皆さまのご参加をお待ちしております。共に学び、行動してまいりましょう。



SDGs 未来都市
 埼玉県